

News Letter

央道湖(松江市)

2021年

1月

中国四国農政局
島根県拠点

奥出雲薔薇園



代表取締役社長 福間 厚氏

(有)奥出雲薔薇園は植木や水稻を営む傍ら、趣味の薔薇づくりを商売にできないかと考え、花屋で売っていないような新しい品種・付加価値を持ったバラを作るため、平成元年からバラの品種、栽培技術の研究開発を進め、平成17年に産業型薔薇園として開園しました。

薔薇園は、5月から11月頃が収穫期で、自社で開発した「さ姫」と「アップルロゼ」の2品種を無農薬栽培で育てています。

(有)奥出雲薔薇園の品種改良はナチュラルに多種・多様なバラを自然に交配できる環境で栽培し、交配により生み出されることを待ち続け、10年かけてオリジナルのブランドローズ「さ姫」を作り出しました。

「さ姫」は、国内では類を見ない独特の芳香性と鮮やかな深紅の色、花卉の肉厚さを持つバラの花で、厚みのある花卉はローズバスやローズティーなどの加工品に適しており、バラの色と香りを楽しむことができる品種です。

また、多くのシェフやパティシエからの意見を募り、12年間の研究・開発を重ねて、本来バラが持つフルーティーな強い甘みを高めた食用品種の「アップルロゼ」も作り出しました。

育種したバラの豊かな匂い・香りを使った商品を開発するために五感に訴える商品メニューやアイデアのヒントを得るため、消費者やバイヤーと積極的に交流を深め、生花を使う食品や商品、乾燥花をローズティーなどの商品開発などの6次産業化に取り組み、更に、育種したバラの差別化を図るため「さ姫」を商標登録、海外展開を目指して令和2年7月に有機認証を取得、令和3年1月14日には、島根県独自のGAP「美味しまねゴールド」の認証を取得しています。

バラの花の収穫時期には、周辺をバラの芳醇な香りが包み込みます。常に消費者目線で、市場から求められるバラの栽培と環境保全に取り組みながら、市場から求められるバラの商品開発を進めています。

(写真提供：奥出雲薔薇園)



奥出雲薔薇園の商品

#元気いただきますプロジェクト

農林水産省は、新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛や輸出停滞などの影響で価格低下や売り上げ減少などが生じている農林水産業を支えるため、幅広い層の消費者の皆様へ、食べて元気になって、生産者を応援する消費を呼びかける「#元気いただきますプロジェクト」を実施しています。

- ・詳しくは、こちらをご覧ください。
(#元気いただきますプロジェクトホームページ)
<https://www.kokusan-ouen.jp/index.html>



野菜をもっと召し上がりませんか

国民1人当たりの1日当たり野菜摂取量は280グラム程度と「健康日本21」（厚生労働省が推進する健康づくり運動）の摂取目標量（350グラム）を大きく下回っています。一方、今秋は、気候が良好に推移し、全国的に野菜の生育が良好で出回り量が多いなど、多くの野菜の価格がお手頃になっています。農林水産省では、野菜の消費拡大のため「野菜を食べよう」プロジェクトに取り組んでいます。



- ・詳しくは、こちらをご覧ください。（農林水産省ホームページ）
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/yasai/2ibent.html>

「農林水産業・食品産業 作業安全Week」の実施について

農林水産省は、令和3年2月16日(火曜日)から2月26日(金曜日)に、作業安全対策の優良事例紹介や分野ごとの安全対策に係る情報交換、作業安全に資する新技術の紹介などを行う「農林水産業・食品産業の作業安全推進シンポジウム」、「作業安全確認運動推進会議」、「作業安全新技術等マッチングミーティング」を開催します。全てオンラインで開催し、どなたでも無料で参加できます。



- ・詳しくは、こちらをご覧ください。（農林水産省ホームページ）
https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/kihyo01/210115_13.html

◎「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集：中国四国農政局 島根県拠点

〒690-0001 松江市東朝日町192

TEL (0852)24-7311(内線211) FAX(0852)27-0641 <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>